

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含み。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 5 月）	今回（平成 15 年 8 月）	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、携帯電話用のフラッシュメモリーや自動車向けIC等の好調により増加した。輸送機械は、新車投入効果が依然として続き、北米向け輸出も好調なことから増加した。一般機械は、半導体製造装置等で前期の反動減があったものの、おおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、発泡酒増税前の駆け込み需要などの影響で堅調に推移した。化学は、アジア向けの輸出が堅調なことから自動車向けにも動きが出てきたことから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

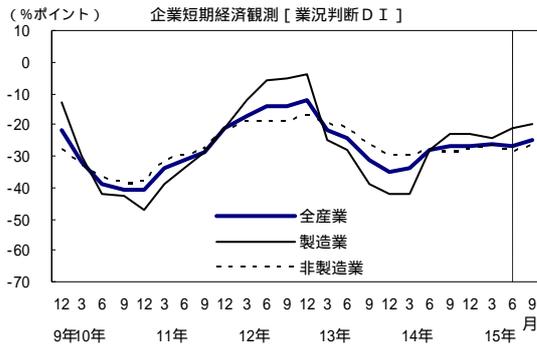
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電子部品・デバイス	14.9	2.9	9.3	12.8	1.7
輸送機械	11.7	4.6	6.0	4.8	32.6
一般機械	11.0	1.4	0.5	5.2	4.7
食料品・たばこ	10.8	3.8	3.0	3.2	11.0
化学	8.5	2.8	5.0	0.7	1.9
鉱工業	100.0	1.7	2.1	1.8	3.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

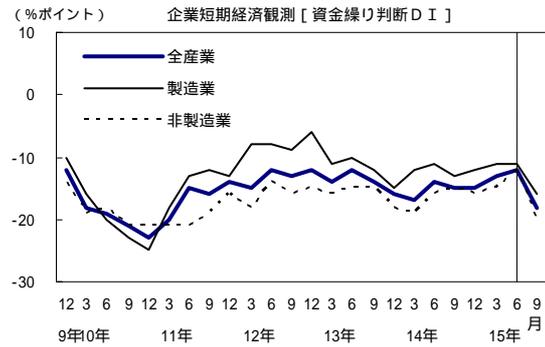
2. 4～6月期は速報値。

(備考) 平成 15 年 6 月の九州は速報値。

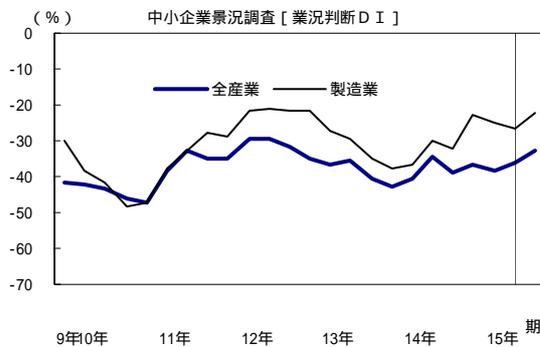
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「地方の中小物件にも大手企業が参入しており、受注が激しくなっている(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

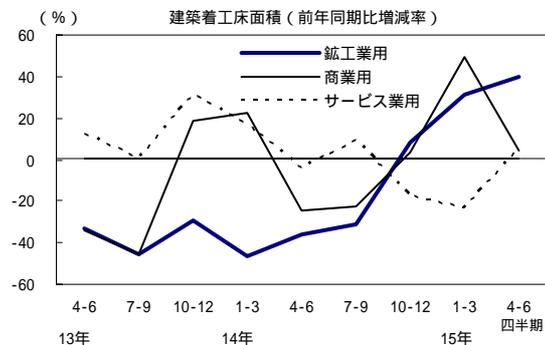
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度画
全産業	11.3 (4.7)	3.2 (1.4)
製造業	2.9 (2.2)	6.5 (0.7)
非製造業	14.5 (7.4)	1.8 (2.4)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

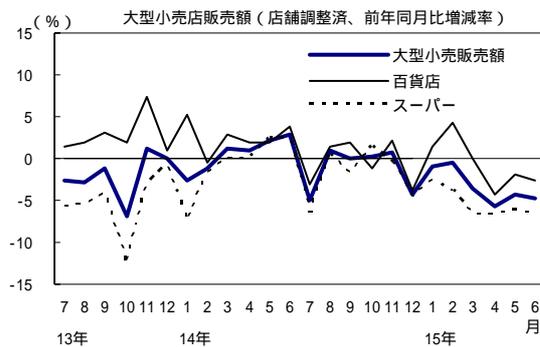
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は気温が低めに推移したことにより春物・初夏物の衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。5月は身の回り品で母の日用ギフトの好調、6月は飲食料品で中元ギフトが動いたものの、いずれの月も、天候不順により夏物衣料が不調であったことなどから、前年を下回った。

スーパーは、天候不順による衣料品の不振や家庭用電気機械器具の売上が減少したことに加え、新規店の出店の影響から、前年を下回った。なお、全店ベースでは前年を上回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「県外からの観光客は多いようだが、レンタカー、バスの利用が多く、タクシーの利用が少ない。夜は暑くなっているので、ビアガーデンがはやっているが、タクシーの利用は少ない(タクシー運転手)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

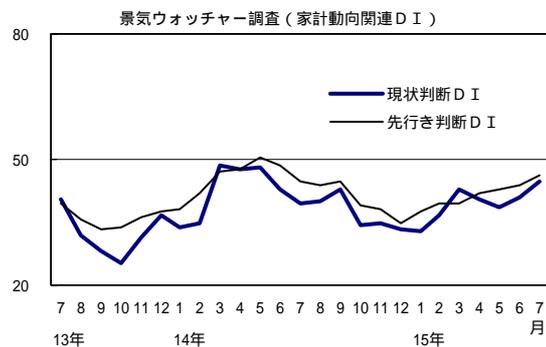
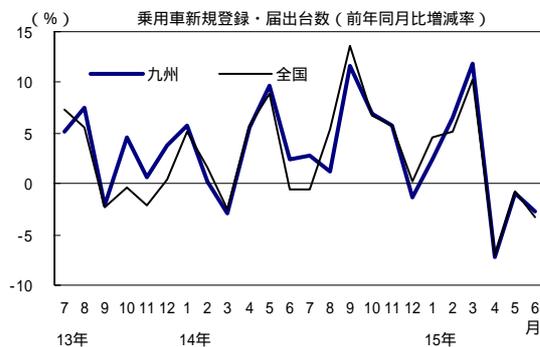


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	1.6	1.5	1.7	4.9
百貨店	0.2	1.4	1.7	2.8
スーパー	2.7	1.6	4.4	6.4
乗用車	5.4	3.7	7.9	3.6
景気ウォッチャー	40.7	34.3	37.5	40.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。九州・沖縄地区の値。

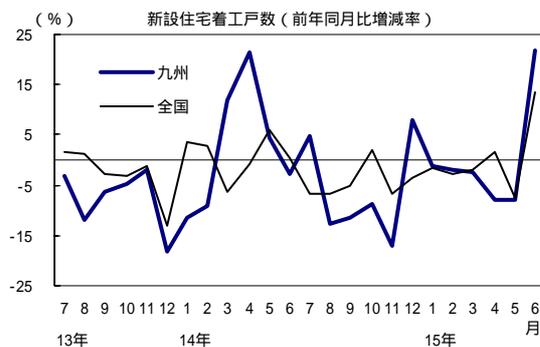
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

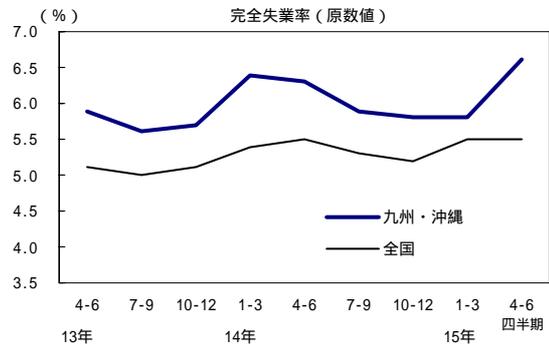
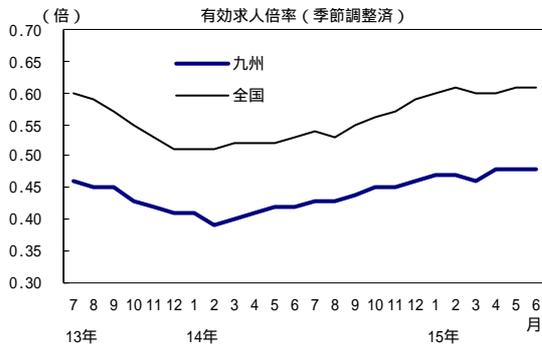


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「事務系の求人数が依然として非常に少ない。皆探しているが、求人が出ないという現実がある(学校[専門学校])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

7月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	402	423	353	375	148
(前年比)	14.6	19.1	14.1	11.1	10.4
負債総額	1,326	2,821	3,369	1,299	1,165
(前年比)	31.6	43.0	140.1	59.1	121.7



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・本格焼酎ブームにより、県外客が増えた。本格焼酎を求める県外客で、店は毎日にぎわっている(その他飲食[居酒屋])

<先行き>

・酒類販売の規制緩和による売上増も考えられるが、現在の経済状況や景況感から考えると、全体的な売上は望めない(コンビニ)

